

## VII 調べ学習のためのお役立ち資料一覧

1 調べるための本を探す		
	<p>(1) 『どの本で調べるか』 [リブリオ出版] 中学生用の調べるための本をリストで紹介しています。</p> <p>(2) 『調べ学習ガイドブック』 [ポプラ社] 調べ学習の進め方、調査方法、主な調査先やそのホームページ・アドレスなどが掲載されています。</p> <p>(3) 『日本の参考図書』 [日本図書館協会] 主に1996年中に出版された参考図書とその特徴が解説されています。</p>	
2 事柄を調べる		
	<p>(1) 百科事典 『世界大百科事典』[平凡社]、『ブリタニカ国際大百科事典』[TBSブリタニカ]、『日本大百科全書』[小学館]、『総合百科事典ポプラディア』(小中学生用)[ポプラ社]</p> <p>(2) 百科年鑑 『読売年鑑』[読売新聞社]、『ブリタニカ国際年鑑』[TBSブリタニカ]、『朝日学習年鑑』(小中学生用)[朝日新聞社]</p>	
3 地域について調べる		
各都道府県事情	<p>(1) 《各都道府県別の大百科事典》 各地域の事柄が百科事典のように載っています。</p> <p>(2) 『郷土資料事典』 [ゼンリン] 都道府県ごと1冊にまとめられ、都道府県内各市町村の紹介などを掲載した地理・歴史の総合的な事典。</p> <p>(3) 『角川日本地名大辞典』 [角川書店] 都道府県別47巻49冊に編集された本格的な地名地誌辞典。掲載されている地名が豊富で、県全体の歴史と現状、地名の特色の概説があります。</p> <p>(4) 『日本歴史地名大系』 [平凡社] それぞれの土地に根ざした歴史を明らかにするために、いろいろな地名や歴史的建造物なども収めた各都道府県別の歴史地名事典。続刊中。</p> <p>(5) 《観光ガイドブック》 事典類ではありませんが、簡単にその地域の特産や名所がわかり、写真も豊富。いろいろな種類が出版されているので、見比べられます。</p> <p>(6) 《各都道府県史》 各都道府県の歴史編纂室が編纂したものや各都道府県1巻ずつにまとめられた歴史の本があります。主に歴史について詳しく知りたいときに役立ちます。</p>	
	北海道・札幌市事情	<p>(1) 『北海道大百科事典』 [北海道新聞社] 北海道に関する人物、事柄、建物など、さまざまな内容が簡単に書かれた百科事典です。出版は古いですが、北海道について簡単に何かを調べるときに利用できます。</p> <p>(2) 『北海道年鑑』 [北海道新聞社] 前年1年間の北海道の出来事のほか、道内市町村の概要、人名録、統計データなど。</p> <p>(3) 『新北海道史』[北海道]、『新札幌市史』[札幌市] それぞれ北海道、札幌市の歴史について詳しく書かれています。</p> <p>(4) 《市内地域史》 地元の人々などが書いた市内の特定地域の歴史についての本です。</p> <p>(5) 《各市町村史》 道内各市町村の歴史編纂室が編纂した歴史の本です。</p> <p>(6) 『さっぽろ文庫』 [札幌市教育委員会] 全100巻で、1巻1テーマで札幌市のさまざまな出来事や事柄について書かれています。別冊として索引があるので、キーワードから関連情報を引き出せます。</p>

外国事情	(1) 『図説大百科世界の地理』 [朝倉書店] 世界を24の地域に分けて1地域1巻で、その地域内の国について、それぞれ政治・社会・産業・地理などについて紹介しています。図や写真が豊富です。
	(2) 『最新世界現勢』 [平凡社] 国際情勢の1年間の動きと最近の動向を国・地域別、国際機関別にまとめたものです。それぞれの国・地域の正式名称、面積、人口、最近の事情などが書かれています。巻末に主な国際機関の解説があります。
	(3) 『最新世界各国要覧』 [東京書籍] 世界の国と地域の最新データと情報を解説した本です。国・地域ごとに地理・風土、政治・経済、社会、日本との関係について書かれています。巻末に世界全体の現況、世界なんでもベスト10などがあります。
	(4) 『読んで旅する世界の歴史と文化』 [新潮社] 全16冊で、主要な国について、およそ各国1冊の分量でその国の歴史、文化、社会、教育などについて紹介。巻末には人名録や年表があります。
	(5) 『世界年鑑』 [共同通信社] 前年1年間に起きた世界の出来事を中心に編集した本です。国際情勢、各国の理解に役立つ記録、統計データがあります。世界人名録も。
<b>4 人物について調べる</b>	
世界の人物	(1) 『世界伝記大事典』 [ほるぷ出版] 古代から現代までの世界の代表的人物について、大きなスペースを割いて、経歴、著書などを紹介しています。肖像もあります。19冊。
	(2) 『世界人物逸話大事典』 [角川書店] 世界史のなかで興味ある逸話を残した人物の集大成。人物の経歴と逸話を掲載。
	(3) 『伝記評伝全情報』 西洋編、日本・東洋編 [日外アソシエーツ] 日本国内で刊行された西洋人（西洋編）、日本人と漢字圏の東洋人（日本・東洋編）の伝記、自伝、日記などを収集した目録。
	(4) 『20世紀西洋人名事典』 [日外アソシエーツ] 20世紀に活躍した漢字圏以外の西洋人とこれらの地域で業績を残した日本人、東洋人を紹介しています。
	(5) 『現代外国人名録』 [日外アソシエーツ] 日本で知られている現在活躍中の外国人を対象に職業、国籍、経歴などを掲載。
日本の人物	(1) 『日本人名大事典』 [平凡社] 古代から現代まで、主に日本人を対象とした収録数の多い人名事典です。
	(2) 『現代日本人名録』 [日外アソシエーツ] 現在日本で活躍している人物を紹介したもの。日本に関わりのある外国人も含む。
	(3) 『人事興信録』 [興信データ] 政治家、民間会社の役職者、大学教授など、各界の高名な人物を紹介したもの。
	(4) 『日本架空伝承人名事典』 [平凡社] 実在するしないにかかわらず、これまでに名前が人々に伝わってきた人物に関する事典。
<b>5 歴史について調べる</b>	
(1) 『角川世界史辞典』 [角川書店] 世界史を対象とした新しい事典。	
(2) 『国史大辞典』 [吉川弘文館] もっとも規模の大きい日本史の事典。	
(3) 『近代日本総合年表』 [岩波書店] 江戸後期から現代までを対象とした日本史年表。	

<b>6 名著について調べる</b>	
『世界名著大事典』 世界のあらゆる分野の古典的な文献について、その内容、評価、影響などを解説。	[平凡社]
<b>7 言葉について調べる</b>	
(1) 『日本国語大辞典』 日本最大級の国語辞典。近年新しく改訂されました。全21冊。	[小学館]
(2) 『大漢和辞典』 日本最大級の漢和辞典。全14冊。	[大修館書店]
(3) 『宛字外来語辞典』 外来語宛字の読みを探すための辞典。人名、地名などの固有名詞や外来原語に基づいて造られた造語・訳語などを収録。	[柏書房]
(4) 『現代用語の基礎知識』 [自由国民社]、『知恵蔵』 [朝日新聞社]、『imidas』 [集英社] いろいろな分野から、最新の情報・知識を集めた時事用語集。外来語、略語も収録。毎年発行され、その年の社会状況の特集が組まれています。	
<b>8 天文や気象、単位について調べる</b>	
(1) 『理科年表』 暦、天文、気象、物理、科学、地学などのさまざまなデータを収録したもの。	[丸善]
(2) 『気象年鑑』 その年の季節暦、前年の気象記録、災害表などが掲載されています。	[財務省印刷局]
(3) 『丸善単位の辞典』 長さ、面積、体積、質量などの一般的な計量用のものから、科学、技術、商業などに使われる専門的な単位、通貨単位などをおさめた事典。	[丸善]
(4) 『記号の事典』 手話、点字、地図、道路標識から紋章まで、日本を中心に世界中のいろいろな記号を集めた事典。	[三省堂]
<b>9 日本の統計データ全般</b>	
『日本統計年鑑』 いろいろな統計データが載っている統計書。人口、経済、社会などあらゆる分野の基本的な公の統計を収めています。	[日本統計協会]
<b>10 その他</b>	
(1) 『全国神社名鑑』 全国の神社について神社名、所在地などを収録した現在もっとも詳細な神社名鑑。	[全国神社名鑑刊行会史学センター]
(2) 『市町村区分による全国寺院大鑑』 日本の仏教系寺院約8万か寺について、寺院名、宗派、所在地などをまとめた本。	[法蔵館]
(3) 『日本の天然記念物』 1995年2月1日現在で天然記念物として指定されている955物件を収録しています。関連の特別記事を掲載し、カラー図版が豊富です。	[講談社]
(4) 『日本の名産事典』 都道府県別に各地の名産品や郷土料理を紹介しています。内容が古いのが難点。	[東洋経済新報社]

注) この一覧には、書名と出版者(社)のみ掲載しています。著者名、出版年や蔵書場所などの詳細情報は、図書館の利用者用検索機を使って探してください。

## VIII 図書館用語解説

<b>ISBN</b> [International Standard Book Number] (アイ・エス・ビー・エヌ)	国際標準図書番号。本の国際的な識別番号。1981年から新刊書に付けられており、本を特定する。
<b>閲覧</b> (えつらん)	図書館内で図書館の資料を利用すること。
<b>奥付</b> (おくづけ)	図書や雑誌の後ろにある、著者名や出版社名、発行日などが書かれたページやその部分のこと。
<b>カウンター</b>	貸出、返却、利用案内、書庫にある資料の閲覧申込、レファレンス・サービスなどを行っている窓口。
<b>貸出</b> (かしたし)	本、雑誌など図書館の資料を借りること。
<b>貸出券</b> (かしたしけん)	図書館の資料を借りるときに使う券のこと。利用者登録をして発行される。
<b>官報</b> (かんぼう)	国の政策や行政に関して、国民に知らせるために国の行政機関が発行する雑誌のようなもの。
<b>郷土資料</b> (きょうどしりょう)	図書館のある地域や自治体に関する資料。札幌の図書館の場合は、主に北海道、札幌市関係の資料のことを指す。
<b>禁帯出</b> (きんたいしゅつ)	館内でしか利用できないこと、または、そのような資料のこと。参考資料図書、郷土資料、貴重書などがある。本の背に「館内」「禁帯出」というラベルがはってある。貸出禁止ともいう。
<b>検索</b> (けんさく)	蓄積された情報の中から、あるキーワードに合致する情報を取り出すこと。例) 本の検索
<b>参考資料</b> (さんこうしりょう)	辞書・事典・図鑑・年表など主に事柄を調べるために使う資料のこと。参考図書、レファレンス・ブックともいう。
<b>書架</b> (しょか)	書棚、本棚と同じ意味。本を並べてある棚のこと。
<b>書庫</b> (しょこ)	図書館の資料を置いておく部屋や場所。主に出版年の古い資料を入れておく。札幌の図書館では保存・管理のため、利用者には開放していない。
<b>視聴覚資料</b> (しちょうかくしりょう)	CD、レーザーディスク、ビデオテープなどの映像・音声資料。略してAV (audiovisual) 資料。

<b>児童図書</b> (じどうとしょ)	乳幼児から小・中学生くらいまでの興味やレベルにあった図書。
<b>逐次刊行物</b> (ちくじかんこうぶつ)	雑誌や新聞、官報など定期的に発行されるもの。
<b>日本目録規則</b> (にほんもくろくきそく)	本を管理・識別するために本の情報をつくるための規則。
<b>日本十進分類法</b> [NDC (Nippon Decimal Classification)] (にほんじっしんぶんるいほう)	本を内容に従って分類するためのルール。
<b>標題紙</b> (ひょうだいいし)	通常、出版物の冒頭にあり、その出版物の最も完全な本の情報を指示するページ。タイトル・ページ、扉ともいう。
<b>ブックポスト・返却ポスト</b>	図書館が開いていないときにも本の返却ができるように設置されている箱。(視聴覚資料は傷みやすく、返却時の確認が必要なため、これには入れられない。直接、図書館のカウンターへ返却。)
<b>別置記号</b> (べつちきごう)	<p>参考資料図書、郷土資料、国際資料、児童図書など、通常の本棚(この記号の付いていない資料の本棚)とは別にひとまとまりに配置してある資料に付いている識別記号。これによって、これらの本が置かれている本棚の場所を特定する。「資料情報」レシートの請求記号の頭に付いている。本の背ラベルには記されていないが、ラベルの色が異なる。</p> <p>[主な別置記号]</p> <p>R：参考図書、K：郷土資料、KR：郷土参考資料、A：アイヌ関係資料 Y：国際資料、J：児童図書、JR：児童参考図書</p>
<b>目録</b> (もくろく)	図書館の資料を検索するために、一定の順序で本の情報を並べたリスト。
<b>マイクロフィルム</b>	本や雑誌、新聞など写真にとって小さくしたもの(マイクロ資料の一つの形態)。マイクロフィルムリーダーを使って拡大してみる。
<b>予約</b> (よやく)	求める資料が書架にない場合、または、貸出中ですぐに利用できない場合に、別の図書館から取り寄せたり、返却された資料を次に貸出できるようにすること。